

=====
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の
皆様にお送りしております。
=====

◆◇-----
◆ NEE Mail Magazine 115号 ◆
-----2018-8-1◆◇

八月、葉月です。
今年は大阪北部地震、西日本豪雨、その後の炎暑、逆走台風と自然災害や異常
気象が続いています。学校でも熱中症で倒れる生徒がでて、学期末の行事など
神経を使う日々を送られた先生方も多かったのではないかと思います。
そんな中、今夏も「先生のための経済教室」が8月2日の名古屋会場からはじまり
ます。暑い最中に頭の汗をかく。暑さに太刀打ちするにはこれも一つの方法かも
しれません。今月もネットワークの活動を報告すると共に、授業に役立つ情報を
提供いたします。

【 1 】最新活動報告

18年6月、7月の活動やニュースを報告します。

【 2 】イベントカレンダー・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【 3 】授業のヒント「歴史から証券市場を学ぶ」

【 1 】最新活動報告

■大阪部会(No.59)を開催しました。

日時:2018年6月30日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト

内容要旨:出席者 18名

(1) 篠原総一代表(京都学園大学)からの最近の経済教育ネットワークの活動に
ついての報告に続いて、夏の経済教室で授業実践を発表する先生方からの発表
内容の紹介と検討を行いました。

(2)最初は、佐藤央隆先生(名古屋市立はとり中学)から「織田信長と豊臣秀吉
による租税制度について考えてみよう」と題する実践報告です。この授業は、
中学歴史分野の「天下統一への歩み」のところで登場する信長と秀吉による租税
制度を比較し、後に公民分野で学ぶ現代の財政問題につなぐことを意図したもの
です。

(3)次に安野雄一先生(大阪教育大学附属平野小学校)から「主体的・対話的で深い学び～日本の“お金”の使い方を考えよう～」と題した授業報告がありました。今回の授業は、財政、社会保障問題を取り上げ、何に対してお金を使えば良かを調べ、議論し、意見表明する授業構成の授業です。小学校対象の授業ですが、中学、高校、そして大学でも活用できるような主体的・対話的で深い学びをめざす授業として出席者から評価されました。

(4)中山義基先生(京都府立園部高等学校・附属中学校)からは、「将来どう働く?～次世代の労働を考える～」と題する授業報告がありました。これは、前回の大阪部会での提案を改訂し、実際に授業で行った結果を報告したものです。夏の経済教室では、加藤一誠先生(慶應義塾大学)をアドバイザーとして発表が予定されています。検討のなかで新たな提案もなされ、発表当日までさらに改定を加えることになりました。

(5)実践報告の検討に続いて、岡部ちはる氏(東京証券取引所)から、日本取引所グループ(鹿島茂監修)『日本経済の心臓～証券市場誕生!』(集英社)が全員に配布されました。

また、作成途上のアクティブワークブック「エピソード ZERO 教材」の構想が紹介されました。この教材は同じく夏休み経済教室で一部が披露されることになっています。

(6)東京から参加した杉田孝之先生(千葉県立津田沼高等学校)は、夏の経済教室で河原和之先生(立命館大学等)とともに「ウソ! ホント授業」の作り方ー「日常の話題から“経済概念”を素材としてー」と題するプログラムを担当することになっています。これは、河原先生の授業づくりの秘密の解明を目指したプログラムで、現段階で予定されている発表内容が紹介されました。

(7)奥田修一郎先生(大阪教育大学非常勤講師)から、「カリキュラム・マネジメントの観点からみた経済学習」の報告がありました。高校入試問題分析、次期学習指導要領での小学校「家庭科」と中学校「公民」との関係、中学校公民のカリキュラム案、の三点を取り上げたもので、重要な指摘や豊富な内容を含んだものであることから、次回の大阪部会であらためて取り上げることになりました。

(8)その他、山本雅康先生(奈良学園中学高校)から財務省の協力による「財政教室」が始まったことの報告資料が、丹松美代志先生(大阪教育大学等)からご自身執筆の「新聞活用で深い学びを創るには?」が掲載された社会科 NAVI(日本文教出版)が配布されました。

部会内容の詳細は、以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka59report.pdf>

【 2 】イベントカレンダー

<イベント予定です。(開催順)>

■「先生のための夏休み経済教室」がはじまります。

2018年先生のための夏休み経済教室の申込状況(7月27日現在)は以下の通りです。臨時号でもお知らせしましたが、まだ余裕があります。さらに参加者数を増やすために、お知り合いの先生方に一声かけていただければと思います。

8月2日(木)	名古屋中学向け	44名
8月3日(金)	名古屋高校向け	37名
8月6日(月)	大阪高校向け	103名
8月7日(火)	大阪中学向け	98名
8月9日(木)	東京高校向け①	166名
8月10日(金)	東京高校向け②	156名
8月16日(木)	東京中学向け①	151名
8月17日(金)	東京中学向け②	145名

申し込みは下記のHPから可能です。

名古屋会場は

<https://www.jpx.co.jp/learning/seminar-events/seminar/d06/20180802.html>

大阪会場は

<https://www.jpx.co.jp/learning/seminar-events/seminar/d06/20180806.html>

東京会場高校向けは、

<https://www.jpx.co.jp/learning/seminar-events/seminar/d06/20180809.html>

東京会場中学向けは、

<https://www.jpx.co.jp/learning/seminar-events/seminar/d06/20180816.html>

■経済教育ワークショップ【北見】(既報)

2018年10月9日(火)北海道北見北斗高等学校で行います。

内容の概略と参加方法は以下をご覧ください。

<定例会会のお知らせです。(開催順)>

■東京部会(No.102)を開催します

日時:2018年9月15日(土) 14:00~16:30

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究棟 446 会議室

■札幌部会(No.20)を開催します

日時:2018年9月15日(土) 14時30分~17時00分

場所:キャリアバンク セミナールーム

<関係団体のお知らせです。>

■読売中高生新聞高校生1万人アンケート協力をお願い

ネットワークの活動を支援していただいている読売新聞社から以下のアンケート募集の協力要請が来ています。

平成時代がまもなく終わりを迎えることを受け、読売中高生新聞は、全国の中学生高校生1万人以上を対象に、平成時代を振り返り、ポスト平成に期待することに関するアンケート調査を実施いたします。4問程度、授業時間でも宿題の形で実施可能です。

つきましては、皆様の学校にもアンケート調査(実施締め切り9月30日)に参加いただければと考えております。アンケート結果は11月の読売中高生新聞で紹介する予定です。

・タイトル「中高生1万人『平成時代』アンケート」

・ご協力をお願いしたいこと

アンケート調査に参加いただける学校は①~⑤を明記して、読売中高生新聞編集室までメールで連絡をお願いいたします。メールタイトルは「平成アンケート_〇〇学校」です。申込み締め切りは9月12日です。

①学校名

②住所

③電話番号

④担当教諭名

⑤アンケート調査に参加する生徒人数

受付後に、アンケートの詳細、実施方法などの詳細をお送りいたします。

■金融広報中央委員会「先生のための金融教育セミナー」(2018/8)(既報)

https://www.shiruporuto.jp/education/event/container/kyoin_seminar/2018/tokyo/

■金融広報中央委員会作文・小論文コンクール(既報)

<https://www.ron2018.jp/>

【 3 】授業のヒント

■歴史から証券市場を学ぶ

大阪部会報告にもありましたが、日本取引所グループが鹿島茂氏の監修で『日本経済の心臓～証券市場誕生！』（集英社）という本を刊行しています。今月は、その本を手がかりに金融の授業づくりについてヒントを提供したいと思います。

(1)『証券市場誕生！』の内容

本書は、大きく三部に分かれています。

一つは江戸期、二番目が明治・大正期、三番目が昭和戦後です。

江戸期では、大阪の堂島のコメ市場が紹介されます。そこでのコメ取引の実態、コメ切符の登場、それを使つての先物取引、これは世界初の証券先物市場といわれていますが、その様子などが詳細に紹介されます。

カラーの図版では、中高の教科書にも掲載されている堂島のコメ市場の広重の浮世絵も掲載されています。絵の解説では、取引終了時に取引をやめない仲買人にひしゃくで水をかけているという説明があり、そういう風景だったのだということが納得できます。

また、情報をいち早く知るための伝達の方法、コメ飛脚、旗振り通信の紹介など、授業のネタになりそうなエピソードも取り上げられています。ちなみに、旗振り通信では、堂島から京都までは4分でコメの値段が伝わったということです。

明治期では、政府公債の売買から証券市場が始まり、東京株式取引所の設立を巡る多くの関係者の努力が紹介されてゆきます。また、鉄道ブームと証券市場、売買方式、シマの風俗、建物の変遷などが紹介されてゆきます。

戦後は、戦時下の取引など普通ではあまり注目されていない部分や、経済民主化のなかでの証券市場の再開までのエピソード、バブル期の立会売買場の熱気が伝わるレポートなど興味深い話が展開されています。

(2)証券市場を巡る人物像

本書で注目したいのは、証券市場を巡る人たちの紹介でしょう。

江戸期では、酒田の本間家の二人の人物、本間光丘と本間宗久の対比が印象的です。情報を活用してコメで大もうけをした投機家宗久の数奇な人生と、対照的に投機を禁じて宗久を追放して酒田での事業と地域の発展に全精力を注いだ投資家光丘の生き方の違いは、現代でも通用する二つの証券に対する姿勢として考察に値する事例です。

明治期になると、糸平、島清とよばれた田中平八、今村清之助ら明治初期の経済

人が登場します。かれらが横浜での生糸や洋銀取引から証券市場の形成者となってゆくエピソードは、起業家は、時代を読む力とともにアニマルスピリットの持ち主でなければならないことがよく分かる事例でしょう。もちろん、渋沢栄一、五代友厚などの有名人も紹介されていますが、教科書には出てこない人物に注目しながら証券市場の形成を見てゆくのも経済史の大事な視点かもしれません。

戦後期では、GHQのバンカー大佐と川合玉堂ら日本画家との係わりなど、占領下ならではのエピソードにかかわる人たちの動きが興味深いものがあります。

(3) どんなどころが使えるか

江戸期の堂島のコメ市場の取引方法など現代に通じる取引の実態は高校なら利用可能です。特に、先物取引に関しては現代の金融取引の説明のなかでも登場しますが、なかなか生徒には理解しがたい部分です。この本では、歴史を踏まえた具体的な取引が紹介されているので、使える部分になります。

もう一つは、明治期の日本の近代化に証券市場がどのような役割を演じたかの部分です。日本銀行を中心とした金融市場に関しては教科書でも取り上げられていますが、維新直後の貿易取引と市場、産業革命時の起業家たちと証券市場の関係などは、歴史を通して経済を学ばせるという視点から、やはり使える部分ととらえましょう。

また、戦後の新円交換と集団売買、財閥解体とその株式の売却問題、さらには証券民主化のなかの「株式民主化運動」などの部分は、これまであまり注目されてこなかった部分で、戦後の経済成長の証券面から注目させるという使い方ができると思います。

(4) 多角的・多面的に

授業のネタを仕込むネタ本として活用するもよし、掲載されているカラーの写真を見るもよし、コラムで一息つくもよし、なかなか良く出来た読本と思います。

望むらくは、江戸時代で言えば江戸の蔵屋敷、札差などを通じたコメ価格形成や金融との対比、明治以降での直接金融と間接金融の対比などのデータや事例などがあると多角的・多面的に活用ができるかもしれません。また、索引があると本としての活用度が違ってくると言えるでしょう。

一般書籍としてアマゾンなどから購入できます。学校図書館などに入っていると生徒が読んで興味をもつかもしれません。(新井)

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

半世紀前、私の卒業した高校にはエアコンが入っていました。近くに米軍基地があり、防音のために二重窓、全館空調でした。ところが、そのエアコンすぐこわれます。一足制(土足)で、ほとんど掃除をしない集団だったのですぐにフィルターが目詰まりを起こしたのが理由です。まだこんなにひどい熱暑ではなかったので、窓をあけてしのぐこともできたよき時代だったともいえるでしょう。

昨今の暑さ、これはもうエアコンなしには過ごせないものになってきています。温暖化、ヒートアイランド現象など原因はいろいろ考えられます。基地騒音もいやだけれど、自分で自分の首を絞めているという意味では、今の方が深刻かもしれません。経済教育でこの深刻さを克服する方法を考えたいものです。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇